

ら ぶ

宇和特別支援学校 人権・同和教育課

今年度、人権・同和教育課で行った主な取組について報告致します。

【PTA 人権・同和教育研修会】

9 月 12 日（金）に人権・同和教育視点に立った授業の参観及び講演会を行いました。講演会では就労継続支援 B 型事業所『虹』代表者の柴田徳子さんにとっても有意義なお話をいただきました。以下研修会の報告です。

講演会「一人一人が地域に根ざし、活躍するために」（14：20～15：20 体育館）

講師：就労継続支援 B 型事業所『虹』代表者 柴田 徳子さん

< 講演内容（概要） >

子どもが 3 人いて長男が障害者。生後 3 か月頃に障害があることが分かった。それから始まった長男との人生。今は 42 歳。42 年間走り続けて未だに走り続けている。

5 歳で保育園に入園するとき、当時は受け入れ体制がなく「親が毎日ついて行く」ということで、3 か月間毎日保育園に通った。ある程度の期間になって「来なくてもいいよ」と言ってもらった。

小学校に入学する昭和 54 年 4 月に宇和養護学校ができ就学できるようになった。当時は地域の行事に参加させてもらえなかった。教育委員会に言って、親子で参加するとの条件で一つ一つクリアしていった。それから少しずつ、養護学校の受け入れが地域に浸透していった。また、開校当時は学校と寮だけがぼつんとあって周りに何もなかった。PTA で寄付集めに奮闘して 3 年間かけて、最初に運動場を造り上げた。運動場に何も道具がなかったの



保護者で大工、製材をしている方に連絡を取って、夏休みにアスレチックや器具作りをしてきた。小 5 になった頃に、なんでこの学校には高等部がないのかと、みんなで高等部設置に向けて動いた。毎年設置運動をしたが、うちの子が中学部を卒業するまでに設置できず第三養護学校の高等部に入学した。

第三養護学校在学中にも、愛大附属養護学校との交流会を始めるなどいろいろな改革をした。そのおかげでたくさんの方との出会いがあり、今でもご縁が続いている。

高等部を卒業したら、親子で働くことを考えていた。宇和町手をつなぐ親の会の会員さんたちも、卒業後のことを心配するようになり、子ども達の行き場を作るために活動を始めた。活動の拠点として明石に 15 坪の土地を町から借りた。資金集めに内職をし、夜なべもした。建物を建てるために「千円募金運動」をし、やっとプレハブの作業所ができる額になった。長年いろいろな運動をやっていたので、県からも補助金を出してもらえることになった。定員が揃わないといけなかったのが、人集めもした。いろいろな所でいろいろな方にお世話していただくようになって、15 年間無認可作業所をした。

その間に車や作業内容も整い人数も多くなったが、職員の身分保障がなかったのが、法人化することにした。15 年間で 600 万円貯金していたが、法人化のために西予市の官公庁などを中心に全部回って寄付集めをした。端から端まで回ったので何日もかかったが、この子たちのためにと思ったら苦にならなかった。毎日のように走り回って「ひまわりの郷」を建てられることになった。土地選択ではいろいろな経験をしたが、1 番良かったのは、支援学校の近くにできたこと。建築資金のこともいろいろな勉強させていただいた。そうしてやっとできたが、同期の者が一人、寄付はしたが（ひまわりの郷に）行けなかったことが心に引っ掛かっていた。どうにかしなくてはと悩んだ結果、NPO 法人「虹」を立ち上げて、その人も来ていただくようにした。現在は虹作業所に来ていただいている。

虹の設立前、当時はまだ NPO 法人で喫茶店を立ち上げている所がなかったのが、西条の若いお母さんたちにアドバイスをお願いし、こちらから喫茶店の道具や機械を全部持って行き一緒に勉強した。そのお母さん方が、西条福祉会館で「この町で楽しく暮らしたい」という題目で講演会をするのに行ったりもして、いろいろなことをさせていただいた。本当に当時は必死だった。今はちょっと足が出なくなってスト

ップしている。あまりにも社会情勢が変わりすぎるので、しんどいというのもある。それで、若い人にバトタッチしつつあるのだが、まだまだ休むのはいけないかなとも思ったり、不安に思いながらやっている。この間、西条のお母さんがご夫婦で訪ねてきて「東京に1年間くらいパン屋の修行に行っていて、西条でパン屋を開くことになりました」と卒業した子どもさんを連れて挨拶に来てくれた。すごくうれしかった。そのように、自分たちで切り開いていくことが、今日のテーマの「地域に根ざして活躍する」ということになるのではと思う。

「ひまわりの郷」をするとき、作業場の中にすみかを造るとするのが1番の夢だった。今でも1番の夢だが、まだ実現はしていない。ハーモニーきららをするとき、ある友だちが「老人ホームを建てたいので協力してくれ」ということで一緒にやった。またそこで「老人ホームの敷地内にこの子たちのすみかを作りたい」という夢が膨らんできた。NPO法人を立ち上げた当時、愛媛県ではまだ少なく、立ち上げた人たちで集まり、松山で勉強会をした。そのグループの中の一人が、松山に「ゆうゆう」という有料老人ホームを愛媛県で1番早く設立した。その方の助言を受けて、宇和の山田に老人ホームができた。1億何千万というお金がいった。そこはクリアしたが、いろいろなことで断念をして最終的なすみかはできていない。私の最終的な夢は、みなさんも求められていると思うが、親子で住んでいて、親が亡くなった後もその敷地内のグループホームのような所で暮らせるようにすること。この間も、お母さん方が来て「すみかを作ろう、作ろう」と言っている。私たちは、自分たちで体を動かしてするのが流れだったが、今は社会的にみんなそれに乗っかかっているの、言うことは言うが行動を共にしてくれない。

これまでいろいろ活動してきて出会った方々は個性的な方ばかりだが、今でも連携が取れている。その中の一人が四国中央市で障害者のコールセンターをしていて「南予にも造りなさいや」と言われた。そこは、6人編成で24時間態勢を取っているが、毎日のように24時間電話が掛かってきて結構ハードらしい。県と市がOK出したらすぐできるよと言われた。たまたま西予市のコールセンターが廃業になったので後を引き受けようと思ったが家賃が高く断念した。

昔は、障害者に対する理解が得られず差別を受けたこともあった。だから、親が動いて言えない子どもの代わりに発言してきた。今は、社会全体が差別をなくそうという動きになって本当にいい時代だと思う。「障害者差別解消法」ができ、28年度から施行されることになった。この前、第一回フォーラムがあった。そのとき来ていた障害者は自分たちで発言のできる人がほとんどだったが、やっぱり自分で言えない子どもや利用者は、代わりに親や周りの人が支えて社会に対応できるようにしていかなければいけないのではないかと思った。私は現在、県の自立支援法の協議委員をしている。何かあったら発言させてもらおうし、困ったことがあったら、それなりに対応していきたいと思っているので言ってきてほしい。いつでも駆けつけるつもりでいる。

アンケート結果（多くの御意見をありがとうございました。紙面の都合上、主な意見を掲載します。）

1 授業を見られて、どのように思われましたか？ また、子どもさんの様子は、どのようでしたか？（不参加の方は、指導案を見られた感想などを御記入ください。）

- ・自分たちだけで頑張って物事を成し遂げようとしている姿に感動しました。家庭でどのようにすれば子供の成長につながるのかそのやり方を学びました。一生懸命頑張る姿に、この子もこんなに我慢できるんだと初めて知りました。
- ・落ち着いた雰囲気や和気あいあいとポスターを描いて楽しんでいるようでした。
- ・クラスみんなのいいところをさがすのはとてもいいなと思いました。我が子もなんとか一生懸命やられてよかったです。みんなの顔がうれしそうでも楽しかったです。
- ・みんなの中で自分の役割、その役割をはたしてみんなの役に立つうれしさ。これから先の人生で生きる励みになる大切なことだと思います。やはり笑顔や優しい声で「ありがとう」「よくできたね」「助かったよ」等、褒めてもらえることは誰にとってもうれしいことだと思います。毎日の中の小さなことの積み重ねですが、自分の役目をきちんとはたして周りの人に認めてもらい自信を持って生きていける人になってほしいと思いました。
- ・生徒同士、お互いよく見ているなと思いました。
- ・クラスの目標について、一人一人がまじめに考え、反省点など積極的に発表できていた。
- ・和やかな感じでしたが、先生に対して敬語が使われていなかった（うちの子供）。言葉遣いも注意してほしいです。
- ・進路についていろいろとみんなが思っていること、考えていること、自分が直さないといけないこと、自分で言うことができているとよかったと思います。

2 柴田 徳子さんのお話を聞かれて、どのように思われましたか？御意見、御感想お聞かせください。

- ・親子での頑張り、地域との連携の大切さを教えてもらいました。将来、作業所を立ち上げようと思っているので、とても勉強になりました。
- ・障害の子を持つ親として長い間走り続けて、今後の目標に向かってまだまだ頑張ろうという柴田さんの話に、何となく毎日を過ごすのではなく、少しずつ行動して、子供の将来や子供と一緒にどう過ごしていきたいか、親である自分をもっと考えておかなければいけないと感じました。家族のサポートも大切だということ。卒業後の子供の居場所、楽しく過ごせる場所、障害がある人たちが頼れる存在となっている柴田さんの講話はとても勉強になりました。
- ・パワー、行動力がすごいと思いました。先の未来を心配する、生きていける環境作り、とても必要なことで、障害児の親だからこそ気がつき行動できたのだと思いました。先輩保護者のおかげで、子供達が学校に通えていると思いました。
- ・とてつもないご苦勞をされて、数々のことをこなしてこられたすばらしい方だなと思いました。子を想う親の気持ちはいつの時代も変わらずにあるんだなと思いました。
- ・柴田さんには色々とお世話になって「にじ」に体験にも行かせてもらいました。柴田さんのような方が自分の地区にもいてくれたら心強いなと思いました。
- ・柴田さんは、すごくパワフルな方だなと思いました。将来、自分の子供も仕事をする事になった時、自分で生活できるか？親がいなくなった時、どうして生きていけるのか？と不安はたくさんあります。子供の自立も必要ですが、親が責任を持って、その道に導いて行けるよう、積極的に動いていこうと思いました。
- ・御苦勞されたことが分かりました。子供が小さい頃、差別的な言葉を、知らないおばあちゃんから言われた事を思い出しました。今はそんな言葉は使わないけど、昔はきっと普通になげかけられていたのだと思います。きっと今は学校で習ったりとかして少しずつ良くなってきているのだと感じます。
- ・自分で道を切り開いていくバイタリティを感じました。いろいろなご努力のおかげで現在があるのだなと分かり、感謝したいと思います。
- ・子どものために様々な活動をされたことに感心した。今は、サービスにのっかることが中心になっていることにも共感した。
- ・御自身の体験のお話だったので、大変気持ちのこもった有意義な内容でした。開校当時の学校のことを思い出しました。

3 今後、PTA 人権・同和教育研修会で取り上げてほしいテーマについて御記入ください。

- ・人とかかわりについて、どうすれば笑顔になれるか、どうして笑顔になれないのか、など。
- ・同じように親の会や親ががんばっている方の言葉を聞きたい。
- ・障害をもつ子が自立できるように親がすべきことについて
- ・保護者や施設の方の実際の話はとても参考になります。
- ・卒業生のその後の事を知りたいです。成功例だけでなく失敗例、困ったことなど教えてほしいです。卒業生の親の意見も聞きたいです。

アンケートの結果、これから考えていくべき内容がたくさんありました。たくさんの方にアンケートの御協力をいただき、ありがとうございました。

【お話し会】

毎月一回、昼休みに行われているお話し会ですが、9月は人権・同和教育に視点を当てて実施しています。今年度は、9月16日に「おおきいトンとちいさいボン」というお話を、タブレット端末を利用して大きな画面に本を映しながら読み聞かせを行いました。

犬のトンとボンは、大の仲良し。大きいトンと小さいボンは、ふたりで野原を散歩しながら、いろいろなことを経験していきます。初めは、大きいトンは大きい方がいいに決まっていると思っていて、小さいボンは小さい方がいいに決まっていると思っています。でも、経験を通して、大きい方がいいこともあるし、小さい方がいいこともあると知ります。そして、小さいのも大きいのもどっちもいいのだと気付いていくお話です。最後は、お互いの良さを生かして、問題を解決します。「自己や他者の良さに気づき、認

め合うこと」について、言葉は少ないですが、表情あふれる絵を通して考えることのできる話です。岩村和朗さんの絵本の中でも人気のある1冊でご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。表情豊かな絵が見やすいように絵本を大きな画面に映し、子どもたちと会話を交わしながら、ゆっくりと読み聞かせを行いました。

子どもたちは、時に失敗して変な顔をしている絵を見て笑ったり、うまくいって得意そうにしている様子を見て拍手をしたりしながら楽しそうに聞いていました。「大きい方が好き？ 小さい方が好き？」と尋ねると、「大きい方。」「小さい方。」と答える子がいる中で「どっちもいいなあ。」という子もいました。答えは自由。

心がほんわかする絵本です。お子さんと一緒に、ゆっくりと絵を見ながら会話や想像を膨らませてみてはいかがでしょうか。



【人権ポスター・標語】

「西予市人権作品集」の出品者を紹介します。

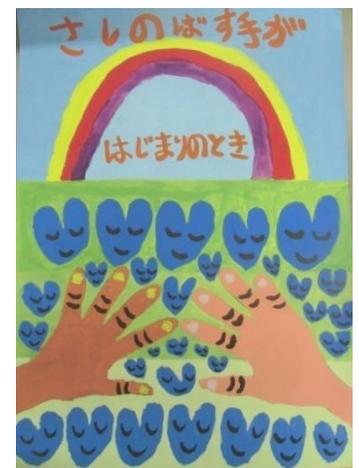
「ポスター」



中2 上川 航平



高2 訪問教育 稲葉 明里



高2 植木 ちなつ

「習字」



高1 信尾 康平



高1 松原 幸子



高3 水野 塔子

「人権標語」

- 高1 田中 明日香 「咲かせよう みんなの笑顔と 絆の花」
- 高2 滝川 理乃 「泣かないで 君の味方は そこにいる」
- 高3 惟任 将斗 「その言葉 少し考えて 言ってみて」

人権ポスター・標語など数多くの応募がありました。心温まる作品が多く、思いやりの心や友達を大切に
 する気持ちが感じられました。御協力ありがとうございました。また、来年もよろしくお願ひします。